

国空安政第2142号
国空無機第236619号
令和4年12月12日

公益社団法人日本航空機操縦士協会 会長 殿

国土交通省航空局安全部安全政策課長
無人航空機安全課長

三沢飛行場周辺を飛行するVFR機の安全確保について

米軍の高高度滞空型無人偵察機（グローバル・ホーク）については、平成26年以降、三沢飛行場に一時展開されており、「三沢飛行場周辺を飛行するVFR機の安全確保について」（平成26年4月17日付け国空航第1092号）により周知をしているところである。

今般、自衛隊の高高度滞空型無人機（グローバル・ホーク）が三沢飛行場に配備され、令和4年12月中旬頃から飛行を開始する予定となっている。

当該グローバル・ホークは、米軍のグローバル・ホークと同様に遠隔地からの無線操縦及び自律飛行プログラムにより無人での飛行を行うことから、一層の安全を確保するため、三沢飛行場周辺の飛行を予定しているVFR機の操縦者が、下記事項を確実に実施するよう、貴会傘下の関係事業者にも周知されたい。

なお、本内容については、航空路誌に掲載済みであり、関連情報についてはノータムが発行される予定となっていることを申し添える。

記

1. 三沢飛行場周辺の飛行を予定しているVFR機の操縦者にあつては、飛行前にノータムにて情報の確認を行うとともに、ATISの聴取又は関係管制機関（20,000ft以下の場合は三沢進入管制所、20,000ftを超える場合は札幌管制部）との通信設定を行い、当該グローバル・ホークの運航の有無を確認すること。
2. 当該グローバル・ホークの運航情報に接した場合、VFR機の操縦者は、ATCトランスポンダーのVFRコード（飛行高度10,000ft未満は1200、10,000ft以上は1400）を発信するとともに、関係管制機関と無線電話により通信設定を行い、積極的に、自機の位置等運航情報を連絡し、また、管制機関によるレーダー業務（レーダー・サービス）の提供を求める等により、当該グローバル・ホークの動向についてモニターを実施すること。